

学修状況の振り返りアンケート2023

*一部学内限りのデータは非表示にしています

2024/02 教学マネジメントセンター

本調査の概要

- 今期の学修状況の把握を目的としたアンケート調査を実施
- 本調査を通じて、教育の質を向上させることを目指す

本調査の基礎情報

調査対象

兵庫県立大学在校生
6,517人

調査目的

教育内容やその効果等の評価
を行い改善策検討に役立てる

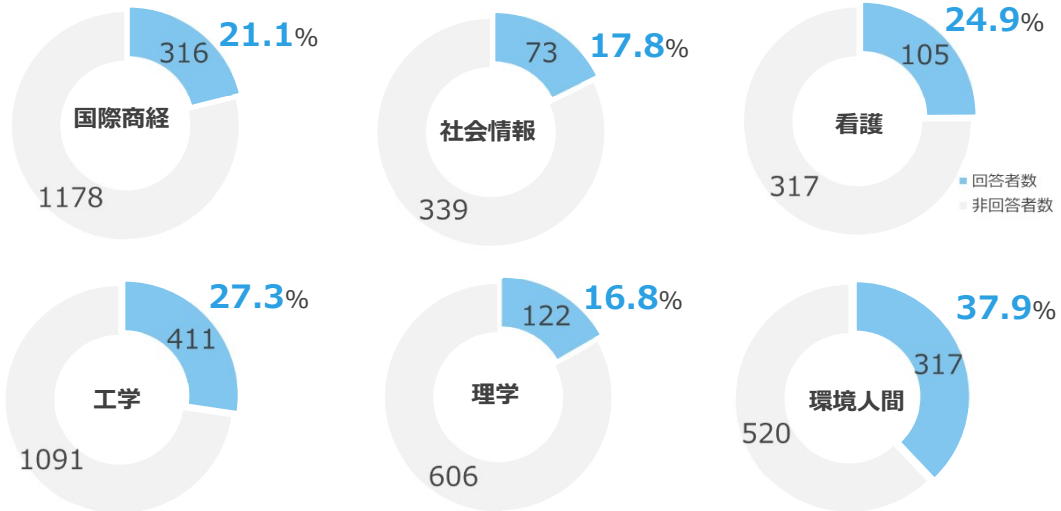
実施期間

2023年10/25-11/23
延長12/8

※アンケートは本部からのユニバーサルパスポートでの依頼(3回)、部局での指示に従い、**Google Formにて実施** (所要時間: 約5分)

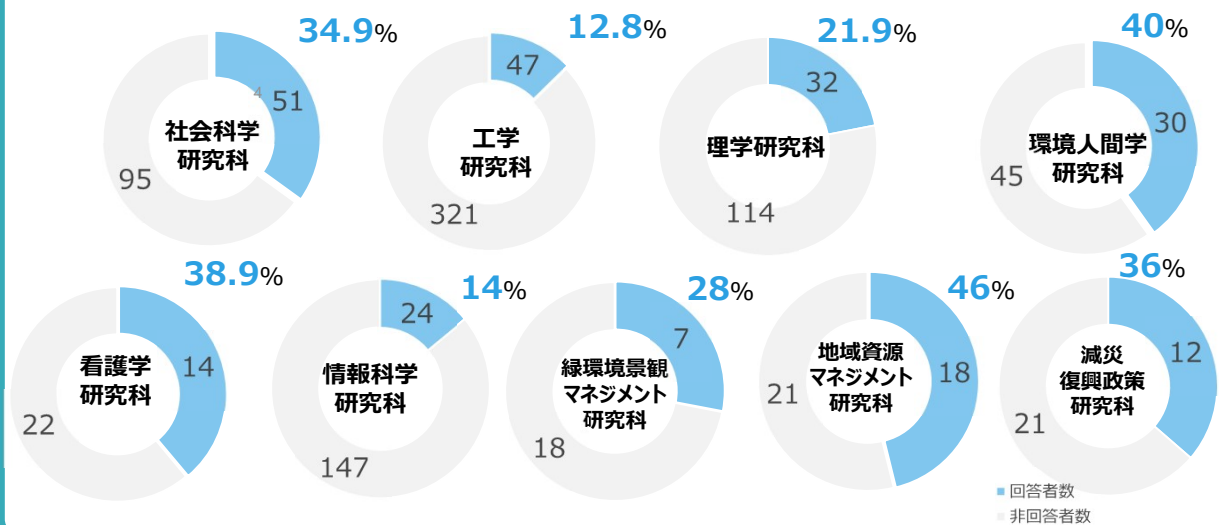
学部別 回答状況

全体：25% (1,345^{経営1含む}/5,411人) 前年度回答者数 771人



研究科別 回答状況

全体の回答率：22.1% (244/1,106人)



調査項目の全体像

今年度の学修状況を把握する。

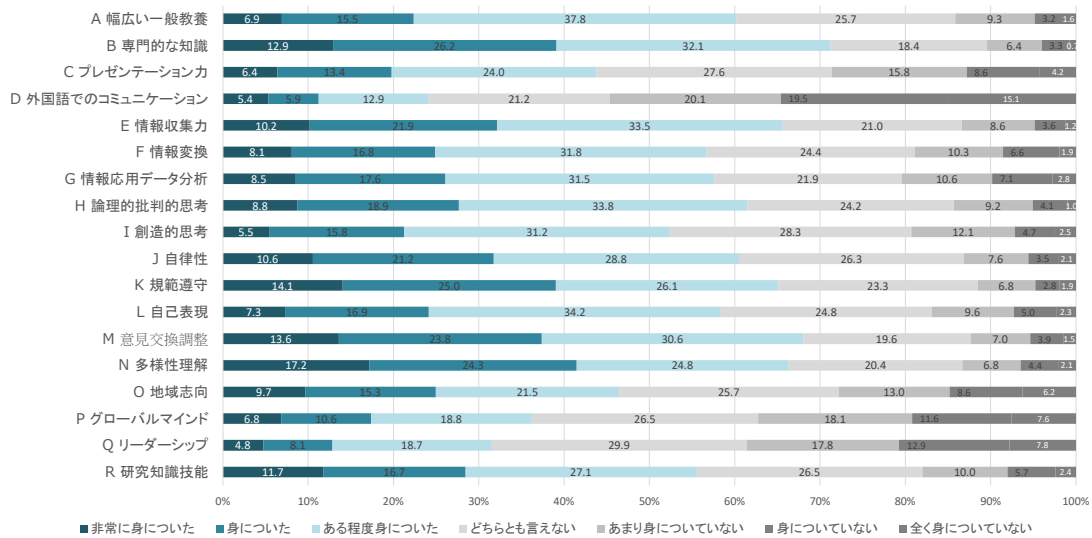
Q: ①～⑥今年度の授業や学習を通してどの程度、知識や能力が向上したと思いますか。

<p>① DP1</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い一般教養 専門的な知識、技能 	<p>② DP2 DP8</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域社会や国際社会の諸課題の理解 	<p>③ DP3</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国語でのコミュニケーション能力 TOEIC 英検取得状況 	<p>④ DP4 DP5</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報収集 情報変換 情報応用 分析
<p>⑤ DP7</p> <ul style="list-style-type: none"> リーダーシップ 	<p>⑥ DP8</p> <ul style="list-style-type: none"> 創造的思考力 課題解決力 	<p>⑦ 満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学における教育の質 	<p>⑧ 補足調査</p> <p>a) 生成AIの利用 b) 学生生活実態調査の補完</p> <ul style="list-style-type: none"> 学修での利用の有無 利用のジャンル 週間労働時間

今年度の学修で身についた点について 学部生 N=1,345

■今年度の学修で身についた点について、「非常に身についた」、「身についた」、「ある程度身についた」の合計が最も低い割合は、外国語コミュニケーションである。

■専門的な知識、データ・サイエンス関連学力は「非常に身についた」、「身についた」、「ある程度身についた」の合計が高い。



調査項目 ～DP1 教養・専門知識～ 自由記載コメント 抜粋

全学共通科目について

- ・全学共通科目にもう少し各分野に沿った特色のある授業が増えて欲しい。授業名が抽象的で何の勉強をしているのか分からないものが多い気がする。授業をオンデマンド化して本学の学生のみが自由に視聴できるようにしてほしい。他のキャンパスの必修授業を受けてみたい。(社会情報)
- ・全学共通科目の授業を担当する講師によりムラがある。身につけているかどうかを重視する先生方と授業をしていけば良いという先生で、講義の仕方、テストの形式などの内容に大きく差がある。(理学)
- ・学部一回生の時の教養科目では人によって成績の差がすごかったり、納得のいかなかった成績を受け取ったりしたのが少し気になった。(理学)
- ・環境人間学部の人全員が学びたいものを学べるようなプログラムにはかえられないのか。(環境)

専門科目について

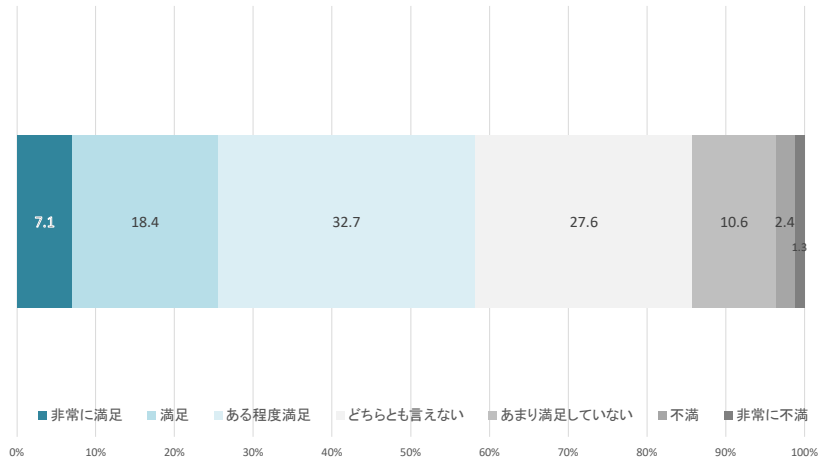
- ・電子情報専攻も電気工学専攻のように、必修を研究に充てるようにしていただきたい。必修の課題に充てる時間が多く、研究が進めにくい。(工学)
- ・専門分野の科目(生物や化学系)は推薦で入学した文系の生徒もいるためスタート時点が違うため理解が難しく時間がかかる点も考慮して下さい。(看護)

調査項目 ～DP3 外国語コミュニケーション～ 自由記載コメント 抜粋

- ・国際商経の英語の授業の宿題の多さや評価の付け方の厳しさの差が大きすぎる。*
 - ・国際商経という学部なのに、外国人とふれあう機会が少なかった。
 - ・2回生以降も外国語学習を充実させてほしい。(国商) *
 - ・英語の授業に関して、もっとレベルの高い授業をしてほしい。(看護) *ヒアリング、過去調査でも同様意見あり
 - ・英語の教育方法が疑問(工学) **保護者意見でも同様意見あり
 - ・一般教養の教科に関しては抽選があったり、個人で学びたい内容を選べるため、教授によって単位の取得の難易度が異なるのは許容できるが、英語のコア科目に関しては、ほとんど必修扱いでクラス分けも勝手にされているにも関わらず、教授によってテストの内容や難易度、単位取得の難易度などがバラバラでとても不公平であると感じた。運要素の占める割合が比較的多いため、英語が苦手な人たちからしたらとても厳しい条件であると思う。
- (工学)
- ・わかりにくい英語の授業がある。(環境)

調査項目 ～満足度 本学における教育の質について～ N=1,345人

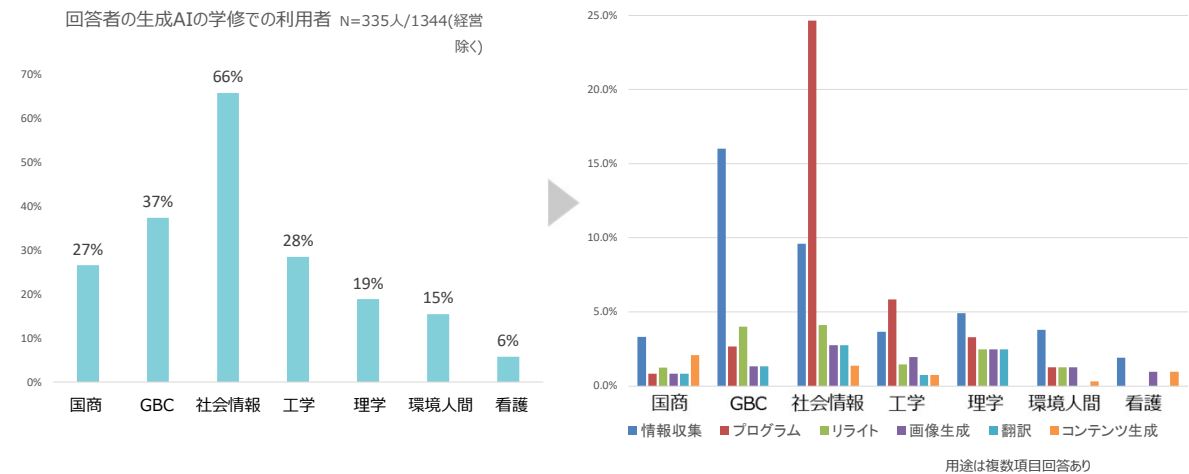
■ 「ある程度満足」32.7%が最も高い割合となっている。



追加調査項目 生成AIの学修での利用について 利用をしているか、利用の用途は何か?

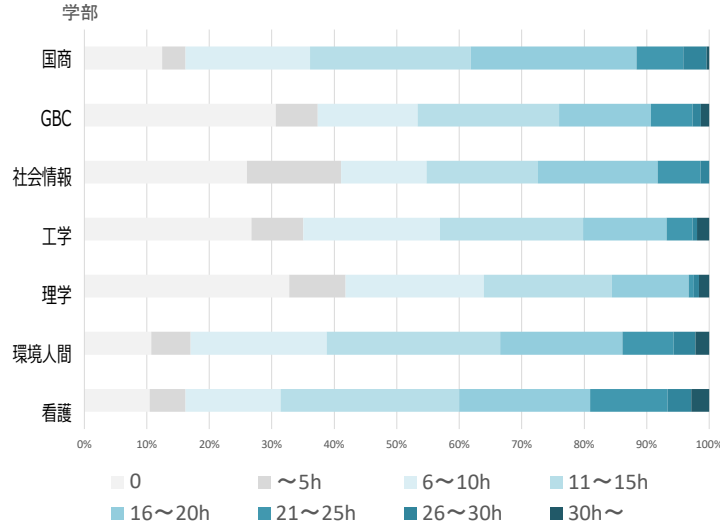
学部により差があるが、一定の利用が進んでいる。

社会情報、工学では、利用用途はプログラムが最多



追加調査項目 週間労働時間 (学生生活実態調査の補完)

国商、環境人間、看護の学生の週間労働時間が比較的長い。



課題 ~回答率向上~

- 学部・学年ごとの回答状況の分析を通じ、**教員・職員からの働きかけの不均衡(ばらつき)**が課題として浮き上がる。

本アンケートの対応状況

UNIPA3回

国際商経キャンパスにおけるチラシ配布 200枚x 昼食時1回、ゼミ時間前1回

回答期間延長と**学部長等連絡会議でのリマインド**

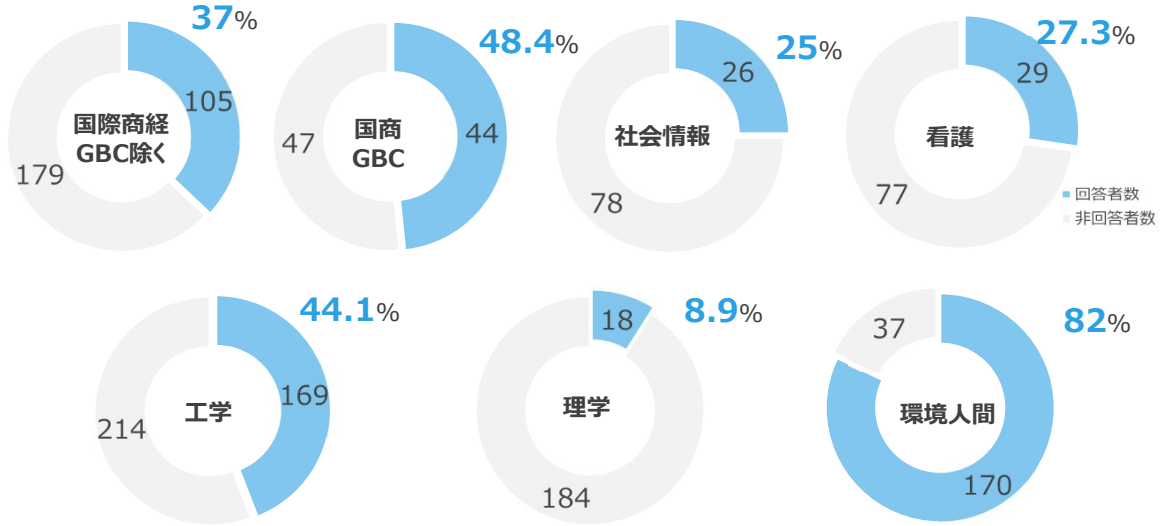
- 1年時にメインキャンパスから隔離されている学生については（理学部/看護学部）、必修教養科目の講師等による協力体制の構築等、何らかの施策が必要。

課題

部局により異なる環境を勘案して、教員・職員からの働きかけの不均衡(ばらつき)の補正

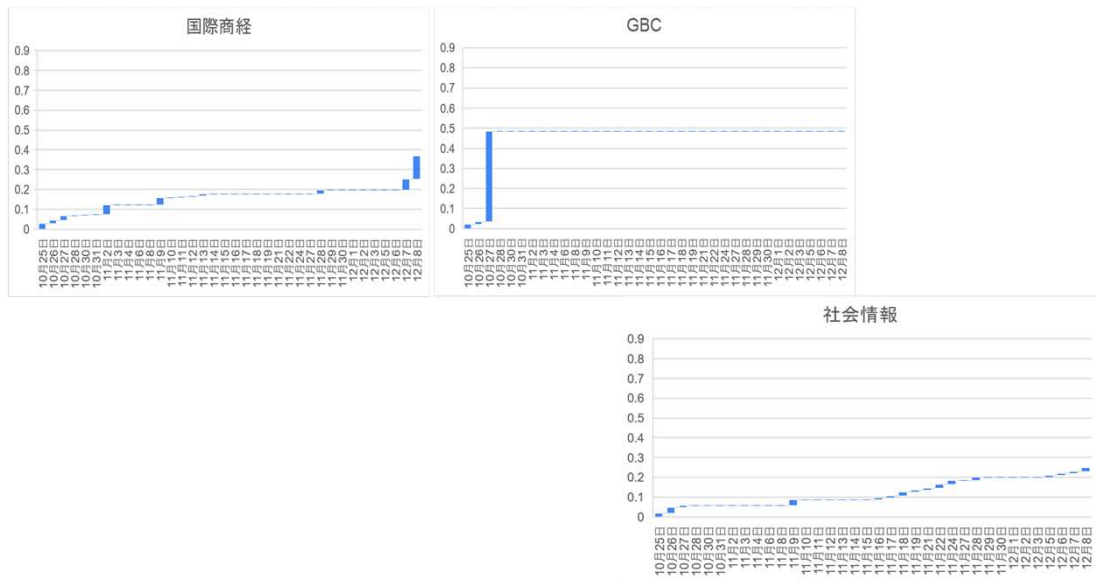
1年生 学部別 回答状況

全学部1年生回答率：40.7% (561人/1,377人)



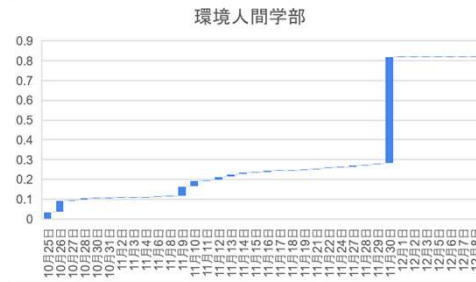
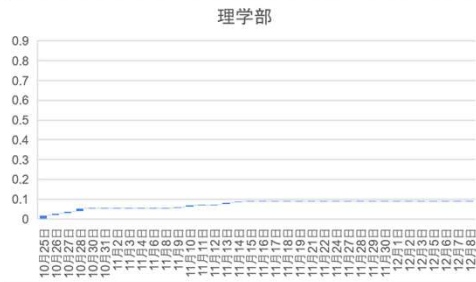
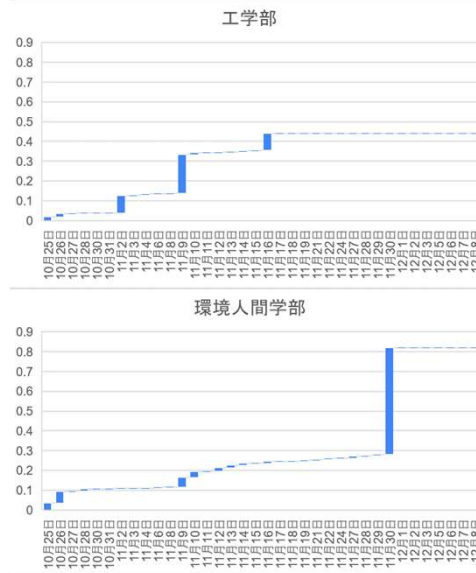
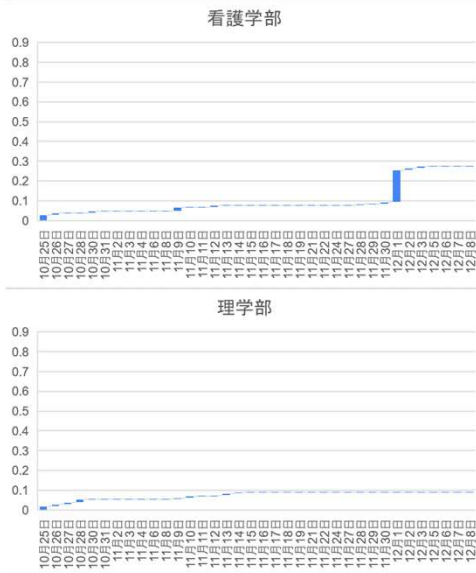
1年生 学部別 回答状況 推移

全学部1年生回答率：40.7%
元期限: 11/23



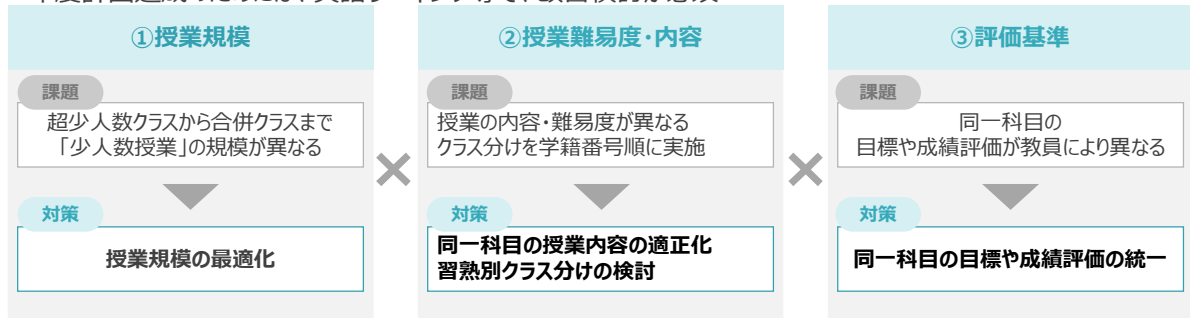
1年生 学部別 回答状況 推移

全学部1年生回答率：40.7%
元期限：11/23



課題 ～外国語教育～

- 英語教育については、GBC以外で向上を認識しづらい結果となっている。年度計画から大きく未達となっている。
令和5年度年度計画・CEFR_B2 レベル到達数：目標250人 大学調べ到達数：67(達成率26.8%)
- 社会情報、工学、理学の三年、四年時に大学院入試対策のためTOEICを受験しているとみられ、点数があがっている学生が見られる。しかし、外国語コミュニケーション能力は上がっていないと回答している層が多い。試験対策の学習は自主的に行っているが、会話等アウトプットの能力は上がっていないことに起因している可能性がある。
- 西地区では一部の外国語授業が必修となっておらず、一方で、超少人数外国語関連授業が開講されている。年度計画達成のためには、英語ワーキング等で、改善検討が必須



課題 ～外国語教育～ 他大学の取組例

1. 神戸大学

・取組強化後、学生の達成度の自己認識が上昇していることを公表している。 jikohyouka-gaibuhyouka2019.pdf (kobe-u.ac.jp)

① 英語科目のカリキュラム改革

・令和元年度からの必修科目の4単位化に伴い、開講する授業の内容の見直しを行った。

・外国語教育部会（外国語第Ⅰ・外国語第Ⅱ）においては、毎年『外国語教育ハンドブック』を作成している。英語の初回授業で、担当教員から新入生全員に配布している。担当教員は、初回授業の約20分間を使って、ハンドブックに基づき、英語科目の履修上の注意や、自律学習の進め方について導入指導を行う。また、**非常勤教員を含め、すべての教員が同じ内容を確実に伝達できるよう、新年度の授業の開始に先立ち、例年3月に教員向けガイダンスを実施している。**

・外国語教育セミナー 外国語教員を対象に、外国語教育について多方面から理解を深め、研鑽するため、地域の人たちにも開かれた外国語教育セミナーを開催している。セミナーの内容は、外国語教育におけるアクティブラーニング、ICTの活用等、教員が自身の授業をよりよく改革していくヒントを得られる機会を目指して実施している。

2. 大阪市立大学

・平成19年度より英語教育改革を実施し、英語教育の実施・改善について、英語教育開発センターが責任を担う体制としている。

1年次 共通教科書 共通テスト 2年次(必修化) 共通教科書 その他オンライン型学習システムを整備

3. 京都工芸繊維大学

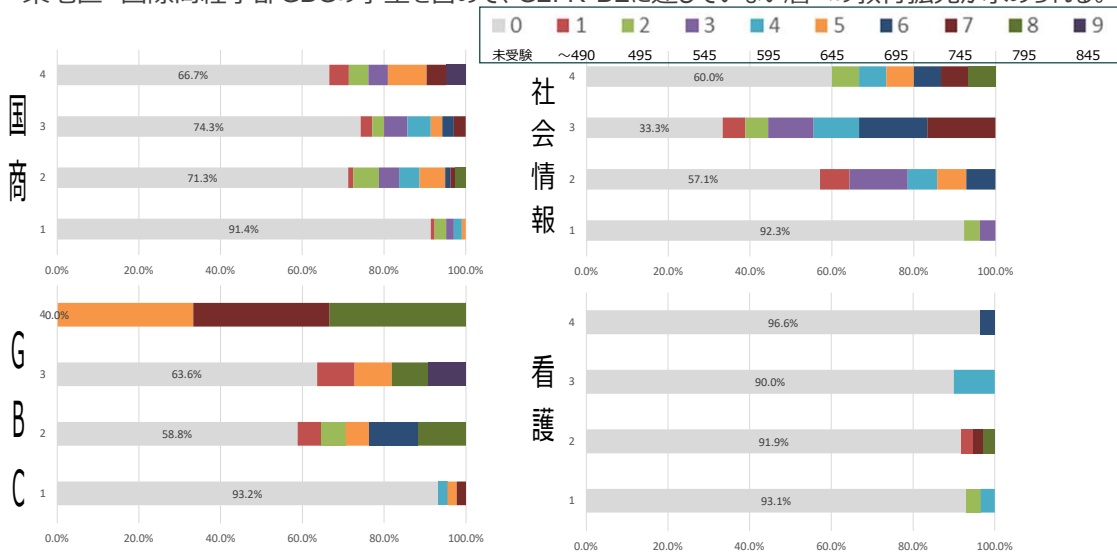
・いつでも、自分のペース、レベルに応じてTOEICや技術英語などの学習ができるオンライン型学習システムを整備

4. 同志社大学

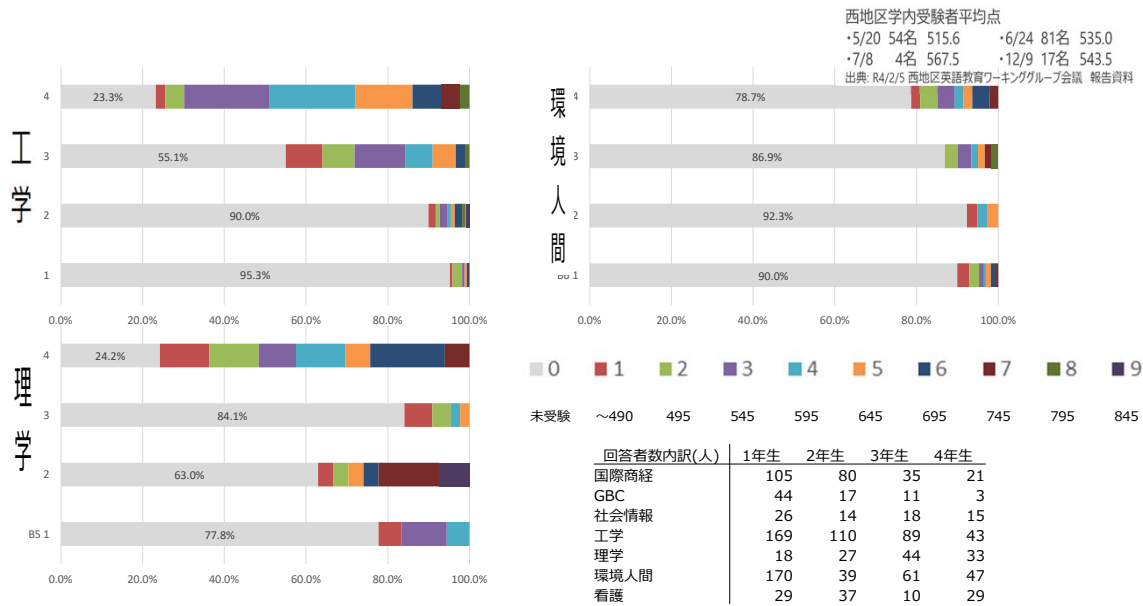
・2022年度から新たな英語のカリキュラムを導入済。入学前に受験するプレACEMENTテストの結果を発端として、2年次までの英語科目全てにおいて4習熟度別のクラス編成を行っている。

課題 ～外国語教育の成果を図る指標の例 TOEIC受験状況～

■ 東地区 国際商経学部GBCの学生を含めて、CEFR B2に達していない層への教育拡充が求められる。



課題 ～外国語教育の成果を図る指標の例 TOEIC受験状況～



課題 教育の質(学術情報)に関して 自由記載コメント 抜粋

- ・卒業研究に取り組んでいる学生の立場からすると、社会情報科学部で取り組むことができる分野に関する論文雑誌の取り扱い数が、近年は少数となっており、研究分野の理解を深めるのに障壁を感じる。(社会情報)
- ・図書館の本をもっと充実させてほしい。(工学)
- ・ユニバーサルパスポートに入るまでの携帯端末の通信力によっては解答にたどり着かないことがあった。評価に関わるなら、持っている端末に関係ない程度の解答時間設定を行って欲しい。(経営)
- ・出席確認をユニパで行う際に、1分で締め切る教授がいる。限られた時間で素早く行うことは大事だと理解しているが、高画質のWi-Fiは弱く、1分間の間にログインして出席確認に答えることが難しいことが多い。出席していても欠席になってしまうので見直してほしい。(国際商経)
- ・eduroamがよく止まる。(理学)
- ・ユニパかGoogleクラスルームどちらかに統一して欲しい。(社会情報)
- ・EMBASE(Embase)やPsycINFOなどの論文検索データベースの拡充(看護学研究科)